

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 51 号

2004 年 12 月



安達太良・前ヶ岳自然林観察会

11月28日(日)に安達太良・前ヶ岳自然林観察会を実施しました。参加者は15名でした。入口から延々と続くスギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツの林道歩きは、本来は退屈なものですが、それでも観察ポイントは豊富で、ナライシダ、オシダ、ミゾシダ、リョウメンシダ、フユノハナワラビなどのシダ植物やムラサキシキブ、ガマズミ、マユミ、ヤマブドウ、ツルウメモドキ、サンショウ、トキリマメなどの色彩豊かな果実を楽しむことが出来ました。また、リスの巣の跡やカラマツ林ではエナガが林道沿いで飛びまわる姿が見られるなど、動物のたたずまいもうかがうことが出来ました。

1時間40分とたっぷり時間をかけて林道を詰め、急傾斜のミズナラ林を登り、ヤシヤブシの自然林に辿り着いたところで、今回の観察会の終点としました。

歩き始めにクロモジモドキ、帰りにロゼット状に常緑葉を輪生する正体不明の樹に遭遇しました。改めて調べてみたらそれぞれアブラチャンとフッキソウのようです。フッキソウはどこにでも分布するようですが、会としては吾妻・安達太良連峰で初めての植生確認です。造園の定番樹木らしいのですが、福島県での自生は珍しいようです。



ムラサキシキブ



ホソバナライシダ



エナガ

明け方まで降り続いた雨も上がり幻想的な霧の中、四季の里駐車場に集合。東北自動車道を南下、須賀川 IC から高土山登山口のある藤沼貯水池に到着する頃には青空も顔をだし、参加メンバーの日頃の行いの良さが天にも通じたかのようでした。

藤沼貯水池は温泉あり、キャンプ場ありで公園化された人造湖でしたが丁度モミジが紅葉の真っ盛りで、真っ赤に染まった姿が湖面に映えて印象的でした。我が家のモミジはどうしてあんな赤にならないんだろうか。寒暖の違いか、空気の汚れか、主人の性格が汚れているからか……

登山口から沢に沿って杉が植林されたシダの群生する林道を20分程で突然戸渡藤沼線の舗装道路が横切る。道路を横断すると本格的な山道に入り、登山道の両側には沢山の野草の花の咲いたあとが残っていた。花の季節にまた登りたい山だ。第一展望台までは栗やコナラの中を進み、鞍部への下りは紅葉したカエデ類の中を歩いた。頂上への急登ではイヌシデ等の巨木が多くなり、第二展望台では五幹のイタヤカエデの大木が見事であった。

このあたりから登山道のあちこちにイロイロなキノコが顔をだし、「食べられるか、食べられないか」で列も乱れがち、「どんなキノコも一度だけなら食べられる」と言う意見があり妙に納得した。今日は芋煮会、鍋に……大丈夫か。頂上で小休止、ウラジロノキの大木を観察後、芋煮鍋準備のため高橋代表と急いで下山、途中キツツキを観察したが高橋さんの下山スピードの速いこと速いこと。カモシカやツキノワグマも追いつけないでしょう。帰路、前述の戸渡藤沼線を1km程歩いたが、こんな車も通らない山の中に自然を壊してどうしてこんな立派な舗装道路を作るのかブツブツ言いながら下山。

鍋の準備が始まったころ、全員下山。アーッやっぱりー！皆さんの手に手にキノコが……本当に鍋にいれるのか。ツキヨタケモドキ、一見クリタケ、等々。「俺、知ーラナイッ」でも、この芋煮鍋の旨かったこと……私は密かに持参した缶ビールを物陰に隠れてゴックン。これだから観察会を辞められない私です。現在までのところ、入院した人も笑い続けている人もいないようになによりでした。



自然保護の話題

1. 吾妻山公営設備整備計画

平成17年度に環境省予算で福島県が施工する磐梯朝日国立公園吾妻地域内の公園施設整備計画について説明会がありました。その概要は以下の通りです。

説明会議事録

日時：2004年10月15日（金） 午後1時30分～4時 場所：杉妻会館 3階 百合A

参加者：環境省自然環境局北関東地区自然保護事務所、福島県自然保護グループ、ロマンチックあづま協議会、福島県山岳連盟、自然公園財団浄土平支部、福島虫の会、福島県植物研究会、高山の原生林を守る会（高橋淳一、佐藤守、奥田）。

① 兎平キャンプ場の再整備（施設の老朽化）

○現状

- ・トイレ2棟・テントサイト21区画・炊事棟3棟・セントラルロッジ・給水設備、電気施設
- ・利用期間：5月から10月（内水が使えるのは5ヶ月）

○現在の問題点

- ・排水不良、テントサイトの浸水、敷地内樹木周辺の流土、トイレ、炊事棟の老朽化、給水管の漏水

○整備計画

- ・進入路舗装改修、排水路の整備、管理棟・炊事棟・トイレの改築（簡易水洗汲取り方式）トイレは1棟に集約+2基のみ汲取り方式、倒木の恐れがあるサイトの植生回復（代替サイト開設）、自然観察路の整備、
- * 炊事棟は水油分離槽経由で浸透させる

質疑（高：高山の原生林を守る会、植：福島県植物研究会）

高：兎平は地形的には融雪が溜まる場所。キャンプ場としては不適ではないか。それが立木の問題を起している。そこで排水をさせるところに無理がある。町のキャンプ場とは異なる国立公園内のキャンプ場建設の考え方が必要（利用を前面に考えるのか、環境を前面に考えるのか）⇒脆弱な自然の中にある施設であり、最小限の整備に抑えてある。

高：利用者数はどのくらいなのか。⇒1500人/年だが春が最も多い。高校総体利用時がピークとなる。5月819人、通常の地区大会220人、週末集中で150人。フリーサイトまで利用される。

高：自然観察路の施工には、湿地であるが故にリスクが多い。また観察路の意味に疑問を感じる⇒慎重に対処する。

植：ヒオウギアヤメが兎平に咲いていたが、極端な施工異物については除去すべきだ。ツルリンドウのようなテングノコヅチが確認された（他県レッドリストにも見られる貴重種）。これを保護するためにも、草刈などは止めた方がいい。

高：高校生のキャンプ場としての機能は分かるが、違う目的の遊歩道は不要に思う。

高：今時、拡張する時代ではないのではないのか？国立公園内であり吾妻小舎も近くにあり、結果として縮小することは致し方ないという考えもあるだろう。

② 酸ヶ平避難小屋近傍へのトイレ設置

- ・福島県営避難小屋は5箇所ある。これらを順次、トイレを整備したい。第1弾が酸ヶ平小屋トイレ建設。
- ・酸ヶ平避難小屋は昭和33年新設され、平成10年改築された。
- ・現在の問題：浄土平は年間3万人訪問があり、小屋の周辺に排泄物で臭気・景観悪化、鎌沼水質が悪化。
- ・立地状況：道路が無い、水が確保できない、電気が無い、無人である、周辺では最も高い（1768m、沼は1762m）。
- ・設置トイレ：蒸発散処理（自己完結型）簡易水洗式◎汚泥は5~7年毎に搬出、水は循環使用、ペーパーは使用、120人/日の処理能力

質疑（高：高山の原生林を守る会）

高：冬を考えて、普通の汲取り式を併設するのか。⇒併設するが後処理は同様だ。

高：湿潤散水装置は低温下での能力は？⇒低温で活性化する薬剤塗布を考えている。11年前建設の沼山峠が同じ方式、飯豊山・梅花皮木小屋も同様、三国と本山小屋も導入。

高：トイレトーパーは使用しない方式は可能か？ハードを作るばかりでなく管理面でソフト的に伝えていく必要があるのではないかと⇒確かにハード面だけでなく、意識に訴える必要はあり両輪でいく。紙を投げ捨てない方が寿命は長い。例えば携帯トイレボックスを部屋に付ける等も考えていきたい。管理はビジターセンター、清掃協議会へ打診している。

高：避難小屋利用から逸脱した使い方にならないか⇒谷地小屋は釣り屋の常宿化している。これについては検討させてくれ。

高：蒸発散処理外観は⇒フラットで上は土で、植物は周辺のが進入することを期待する。（外来種は入れない）

高：工事はどうするのか⇒小型バックホーをヘリで運び、工事済めば、ヘリで戻す。

高：酸ヶ平は貴重なので土砂の流れないか⇒土砂は流れないように工事する。穴を掘って、残土は場外に運び出す。

平成16年11月25日に兎平キャンプ場整備に関する以下の回答が環境省・福島県から高山の原生林を守る会にありました（回答文書は平成16年11月19日付け）。ポイントとしていた、沼地を経由する新設連絡通路については、植生保護に最大限配慮することから、どうしても設置したい旨説明があり、この件については、了承をしてきました。但し、今後の運用において以下の点に配慮、検討していただくことを強く要望した。

1. 利用していくなかで、裸地化の進行や歩道の洗掘が見られるようになれば、閉鎖を含め、維持管理をしっかり行なうこと。

2. キャンプ場利用者に対し、自然保護への啓蒙活動等を実施していくこと。(リーフレット活用)

環境省・福島県から高山の原生林を守る会への回答

1 サイトの閉鎖・新設について

新設サイト数を2(当初提案は3)とし、閉鎖サイトを2(当初提案は4)とする

C列のうち2サイトは洗掘により倒木の危険があり、廃止が必要と判断された。別な3サイトについては、樹木周りの植生回復が必要なことから、一時閉鎖とする。以上により、当面は計5サイトが減となる。説明会で提案した新設サイト計画箇所については、特に貴重な植生は見られないが、樹木の多い1サイトは木を切らない整備は不可能であり不適當、その他の2サイトは既存樹木を切らない規模を条件として整備は適當とされた。整備後には利用者が増加することが予想され、5サイトの減に対応し、現在利用が少ないA列への利用誘導も図るため、A列に小規模なサイト2箇所を新設する。閉鎖サイトの再開については、植生の回復状況をふまえ、慎重に検討する。

2 A・B列間連絡通路の設置について

既存植生に配慮し、一部グレーチング歩道、残りは土道で整備する。

連絡通路ルートにはチシマザサの他に貴重な植生は見られず、植生への影響は小さいと判断された。よってA列の利用性向上を図るため、連絡通路を設置する。池の周辺は、表面水の遮断を避けるため、水を透過する「鋼性グレーチング歩道」で整備し、その他はササの刈払い程度の整備とする。

3 その他

絶滅危惧種「テングノコヅチ」は、園路の路肩部分に生息していることが確認された。園路の整備時に十分留意するとともに、草刈時に刈り込み過ぎないようにする。

2. 国有林の地域別の森林計画(案)に関する意見書

国有林の森林計画公告縦覧に対し、平成16年11月18日付けで関東森林管理局に下記の意見書を提出しました。

国有林の地域別の森林計画(案)に関する意見書

「阿武隈川森林計画区」における地域別の森林計画(案)につきまして、下記により意見を述べさせていただきますので、よろしくお取り計らい願います。

記

1. 計画樹立の基本的な考えかたにおきましては、林産物の供給と水源かん養を始めとする公益的機能の推進が述べられております。機能類型における「水土保全林(水源かん養タイプ)」の拡充に対しましては、大いに評価するものでありますが「森林と人との共生林(自然維持タイプ)」の森林につきましては、従来計画と変更がありません。指定区域以外にも優れた自然環境を有する森林が多数残されており、生物多様性、自然景観保全の見地からも一層の拡大を希望いたします。また、このことは、本年多発しているツキノワグマの出没や人的被害に対しましても、採餌場所、棲息地の確保による予防的効果も高まるものと思われれます。
2. 上記でも述べましたが、現計画での機能類型「森林と人との共生林」には変更がありません。この中の「森林空間タイプ」には、スキー場やその予定地が設定されておりますが、閉鎖となった施設や防災上の問題から実質的な整備が不可能な地域(例:43林班高山スキー場)が存在します。地域ニーズ(地元土湯観光協会でも優れた自然として森林保全の方向にある)と現状を踏まえ、抜本的な見直しを希望いたします。また、これらの地域は森林の伐採に関する留意事項におきましても、「土地の形質の変更は極力行なわない」地域として指定されており、公益的機能と増進に寄与するものと思われれます。
3. 森林の伐採方法につきましては、皆伐、漸伐、択伐と分類されております。このなかにおきまして、ブナ、ミズナラ、トチノキ等広葉樹の伐採について、「天然更新の確実な森林」等、各種条件が定められておりますが、希少動植物の棲息地となっている場合が多いことから、具体的な伐採地の選定や作業に当たりまして、現地状況の的確な把握を行なう等、慎重に願います。また、「公益的機能を阻害しない」方法としての諸条件につきましても、厳守できるような管理体制の充実が必要ではないでしょうか。
4. 自然公園区域における森林施業につきましては、「特別保護地区」=環境大臣、農林水産大臣との協議、「第1種特別地域」=基本的に禁伐(例外的に10%の単木択伐)「2種特別地域」=30%以内択伐(薪炭材60%以内択伐)と示されておりますが、「3種特別地域」は特に制限を受けないとなっております。しかし、本計画内の「第3種地域」はブナ、ミズナラ等の広葉樹が多く存在しており、大型野生動物の数少ない棲息地となっていることから、ガイドライン等が必要ではないでしょうか。

高山の原生林を守る会 2004年度定期総会議案書

2004年11月28日(日) 13:30~15:40 アットホーム大玉

(1) 2004年度活動報告

- ・2月11日 第67回観察会(信夫山) 18名
- ・2月29日 福島森林管理署長同行高山調査 1名
- ・3月29日 観光プラスワン作戦会議出席(国土交通省主管) 1名
- ・4月23日 鳩峰峠植林活動事前打合せ(山形県高島町 JA おきたま高島) 1名
- ・4月25日 第68回観察会(スプリングエフェメラルと里山の萌黄観察会) 21名
- ・4月28日 鳩峰峠植林ボランティア活動申請 1名
- ・5月15日 福島県自然史博物館設立推進協議会総会 1名
- ・6月5日 うつくしま自然展第1回実行委員会(蓬莱公民館) 1名
- ・6月6日 第69回観察会(植林・龍ヶ岳) 31名
- ・6月19日 うつくしま自然展第2回実行委員会(蓬莱公民館) 1名
- ・6月28日 観光プラスワン作戦会議出席(吉井田公民館) 1名
- ・7月3日 うつくしま自然展第3回実行委員会(蓬莱公民館) 1名
- ・7月4日 第70回観察会・ボランティア(西吾妻・西大願) 17名
- ・7月31日 うつくしま自然展第4回実行委員会(蓬莱公民館) 1名
- ・8月14日・15日 「うつくしま自然展」開催コラッセ福島 6名
- ・8月29日 第71回観察会(裏磐梯野鳥の森) 19名
- ・9月13日 観光プラスワン作戦会議出席(吉井田公民館) 1名
- ・10月4日 観光プラスワン作戦会議出席(吉井田公民館) 1名
- ・10月15日 磐梯朝日国立公園吾妻地域内の公園施設整備説明会 3名
- ・10月16・17日 東北自然保護の集い(山形集会) 1名
- ・10月29日 国有林の森林計画公告縦覧 1名
- ・10月31日 第72回観察会(高土山) 17名
- ・11月18日 国有林の森林計画に関する意見書提出
- ・11月25日 磐梯朝日国立公園吾妻地域内の公園施設整備再説明会 1名
- ・11月28日 第73回観察会・総会

(2) 2004年度会計報告

収入の部			支出の部		
科目	予算額(A)	決算額(B)	科目	予算額(A)	決算額(B)
前期繰越金	326,298	326,298	会議費	10,000	7,650
会費	45,000	55,500	郵送費	40,000	39,130
観察会参加費	30,000	49,700	観察会経費	30,000	8,910
書籍販売		19,500	交通費	30,000	25,500
カンパ	-	20,424	苗木購入費	50,000	37,380
県助成金		20,000	保険代	30,000	36,630
小計	75,000	165,124	渉外費	10,000	-
合計	401,298	491,422	雑費	30,000	31,228
			予備費	171,298	56,400
			合計	401,298	242,828

2004年度決算額 248,594 円(次期繰越金)

(3) 2005年度自然観察会

	期日	場所	定員	内容	担当
第74回	2月5日(土)	的場川周辺	20名	冬のブナ観察会	守
第75回	4月24日(日)	東吾妻山	20名	春の雪上観察会3度目の正直	山内
第76回	6月5日(日)	龍ヶ岳	-	植林とブナの森散策	高橋
第77回	7月3日(日)	人形石~藤十郎	20名	登山道調査とロープ補修	
第78回	8月28日(日)	磐梯山	20名	外来種植生観察	鈴木
第79回	10月22日(土)	白布峠~馬場谷地	20名	紅葉観察会(芋煮会付)	奥田
第80回	11月27日(日)	高旗山	30名	総会+温泉(源田温泉)	高橋

第74回自然観察会案内：高山・的場川周辺のブナ雪上観察会

日時：2月5日（土）7：30～16：00

集合場所 四季の里交差点正面入口駐車場 集合時間 7：30 参加定員 20名

内容 雪上に残されたフィールドサインと的場川登山道周辺のブナ群を楽しみます。

日程 8：00（四季の里発）9：00～9：15（男沼P発）10：40（高山登山口）12：00～13：00（振子沢・昼食）13：00～14：30（高山登山口）15：10（男沼P）16：00（四季の里）

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、冬季歩行用具（スノーシュー、カンジキ、スキー）

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（300円）

申し込み：2月4日（金）まで

参加申込先：高橋淳一（TEL 024-593-1990）または佐藤守（TEL 024-593-0188）

電話またはメールにて返信ください。（電話申込はいずれも夜間7時～9時でお願いします）

2005年カタクリの会奥羽自然観察会計画（1月～6月）

月日	回数	自然観察会のテーマ	観察地
1月23日（日）	169	雪の自然観察	湯田町峠山
2月13日（日）	170	雪の自然観察（雪国文化研究所を訪ねます）	沢内村志賀来
3月13日（日）	171	春を見つけよう	沢内村七内
4月30日（日）	172	カタクリの里歩き（カタクリサミット関連行事）	湯田町・沢内村
5月15日（日）	173	雪椿と夏の渡り鳥（東北緑の回廊一斉観察会参加）	湯田町白木峠
6月12日（日）	174	新緑のブナの森（東北緑の回廊一斉観察会参加）	湯田町未来の森

- * カタクリの会は西和賀地方（湯田町・沢内村）で、自然観察会開催を目的とした会です。
 - * 会則、会費はなく誰でも自由に参加できますが、各観察会の一ヶ月前から電話でのみ受付です。
 - * 観察会では常時自然観察指導員がご案内いたします。
 - * 天候などにより観察地の変更があるかもしれません。詳しくはお問合せ下さい。
 - * カタクリ通信を偶数月に発行いたしており、希望者には年間千円で送付致します。
- （郵便振込みをご利用ください…02350-5-38765 加人者名…カタクリの会）

カタクリの会連絡先：郵便番号 029-5512 和賀郡湯田町廻戸 電話&FAX 0197(82)3601 代表 瀬川強

第3回全国カタクリサミット in 西和賀

日時 2005年4月29日-30日 会場 29日：ゆだ文化創造館銀河ホール 30日：カタクリの里歩き
基調講演「カタクリ不思議な世界-日本と世界のカタクリ」河野昭一（京都大学名誉教授）
連絡先 第3回全国カタクリサミット実行委員会 TEL0197-85-2321, 2775（岩手県和賀郡沢内村）
参加申込締切：2005年3月31日（定員になり次第締め切りとなります）

新年度の会費納入をお願いします

郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

[編集後記]2004年の観察会も事故も無く無事終了することが出来ました。今年も沢山の発見がありました。
■自然観察会に限りマンネリはありえません。マンネリ化するのは人間の感性のほうかも。■今年は暖冬で吾妻連峰の白さもまだら模様。あまたの雪と穏やかな地球の訪れを新年に期待して・・・

「高山」高山の原生林を守る会会報 第51号 2004年12月発行
編集・発行：高山の原生林を守る会 HPアドレス <http://www.h4.dion.ne.jp/~pomo/index.htm>
代表連絡先：高橋淳一 Phone 024-593-1990（夜間7時～9時）
郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」
入会方法：年会費（500円）を添えて上記まで
編集：奥田・佐藤・山内・鈴木